

# 火害メモリアル神戸

一年一組三番

中村武史

今日、災害メモリアル神戸の学習を受けて  
いろいろな話しを聞いて、ぼくは、阪神淡路  
大震災のことを思い出した。あのときは何も  
覚えてなくて、気がつけば地震の面影はな  
かった。あのときをお母さんに聞くと、僕は  
タニスとタニスの間について助かった。家族も  
助かってすごく運がいいと思いました。けれど  
ほかの人たちは僕たちみたいに全員助かった  
人もいれば自分だけ助かってあとの人が死ん  
だと言う人もいるなあ。僕は、思いました。

スマトラ沖地震の話聞いて、ぼくは、津波  
と言ったからころめかと思っていたら、20m  
あると聞いてびっくりした。スマトラ沖地震  
では、十分な防災教育が行なわれてなかった  
ため、甚大な被害に遭った。ミムルという島  
に住んでいた人々は、歌で地震の後には、津波  
がくると知っていて、山にのぼって逃げて、  
死者は千人だけでしたと聞いた。ぼくは、  
もし、この歌がみんなにも聴かせられていたら  
もうあんなに死んだ人をすくなくできたと思っ

僕はいつも、学校での避難訓練などは、適当  
にやっていた。僕はもうそこまで強い。地震  
は来ないと思っっていたけれど、もし強い地震が  
来たら、せつかく運よく生きていたのに訓練  
を適当にしたせいで死んだら最悪だと思った  
ので、僕は今がんばって防災訓練をしていま  
す。それで僕がいま防災についておっている  
ことは、避難道具をいつ来てもいいように、  
用意している。

将来の自分なりにできることは、いろいろな  
人に地震を知ってもらう。いつ地震が来ても  
いいように、じゅんびして、一、二でも命を  
守りたいと思っいました。